

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4570600298		
法人名	医療法人社団慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台1号館		
所在地	宮崎県日向市大字塩見10946-1 (電話) 0982-55-8028		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年9月26日

【情報提供票より】(平成20年7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成12年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤15人, 非常勤0人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年7月24日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	4	要介護2	1
要介護3	3	要介護4	4
要介護5	4	要支援2	2
年齢	平均 85.6 歳	最低 69 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	瀧井病院、山内歯科医院、武富皮膚科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな小高い丘の上に建ち、利用者はゆったりとした環境の中で過ごしている。母体は病院である。関連施設との連携も取れ、利用者が安心した暮らしができる体制が整っている。全職員は持てる力を十分に発揮し、細かな支援を目標に熱心に取り組んでいる。また、運営者、管理者は人材育成に積極的で年間研修の計画を立て、法人内・外の研修に数多く参加させサービスのレベルアップを図っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームの立地条件もあり、地域とのつきあいの点では困難な面も見られるが、改善シートを作成し、地域に積極的に働きかけるなど、全職員で改善に向け取り組んでいる。また、すでに取り組みがなされている事項もある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、評価の意義については十分理解し、サービスの向上に取り組もうと意欲的である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は自治会長、民生委員、市の担当者、利用者家族、職員を交え定期的に開催されている。また、利用者家族には多数の出席を働きかけ、参加者も多く活発な意見交換が行こなわれ、その意見を取り入れサービス向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見、苦情の窓口が重要事項説明書に明示され、ホームに意見箱も設置されている。関連施設の窓口でも苦情受付ができるなど、家族の声が届きやすい体制になっている。また、運営推進会議においても家族の参加が多く、率直な意見が出されており、ホームの運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、回覧板等で地域の情報を取り入れている。地域行事、ホームの行事にも積極的に地域住民の参加の働きかけを行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で理念を作り上げ、朝のあいさつを大切に、利用者がその一日をゆっくり楽しく過ごせる雰囲気作りと地域の中でその人らしく暮らし続けることができる理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については十分理解ができており、日々のミーティングの中で確認し、ケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地区の行事、また、ホームの行事への参加の働きかけを積極的に図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの向上に努めている。また、外部評価の結果を前向きにとらえ改善シートを作成し、具体的な改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3 か月ごとに開催され、利用者家族も多数参加し、活発な意見や討議がされ、サービス向上に結びつく会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者も参加しており、共にサービスの向上に取り組んでいる。	○	定期的に発行しているホーム便りを届け、近況報告等を密に行ったり、また、介護相談員の受け入れを行うことにより、なお一層連携が強まると思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付にあわせ、ホーム便りや日々の暮らしぶり、金銭出納帳の写しを添付している。また、来訪時においても随時報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が多数参加している。第三者機関を設けている事など伝えている。また、玄関に意見箱の設置もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	主に法人内で異動が行われている。利用者の多くが法人内の施設からの入居が多く、行事等で交流が図られており、利用者への配慮が十分にできている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は人材育成に積極的で、法人内・外の研修に多数参加できるように年間を通じて計画的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北、市のグループホーム連絡協議会等の会議、研修に参加し同業者間の交流を図りサービスの向上に努めている。また、近隣のグループホームで管理者会を組織し情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くが法人内の他の施設からの入居で、職員も普段からの交流ができています。また、家族と共にホームの見学をしてもらい、不安を取り除く工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の安心と納得のいく支援を大切にしている。人生の経験者として尊敬し、常に学ぶ心を持って接している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日ごろの暮らしを把握することに努めている。対話の中で利用者の求めることを理解し、思いや希望に沿えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に利用者、家族、職員の意見を取り入れた利用者本位の介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状況の変化や、本人、家族の要望に応じて見直し、計画を作成している。	○	現在、利用者に大きな変化が見られないため6か月ごとの見直しを行っている。変化の有無にかかわらず3か月ごとの見直しが望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である病院、介護施設の機能を十分に生かし、連携を取りながら支援を行っている。また、通院送迎の支援も行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医となっている。定期的または、状況に応じて受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期はホームでとの希望により、受け入れる方針を示している。全職員が理解し対応している。関連病院との連携も取れる体制ができており、家族と書面での確認が取れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守るために、利用者が培ってきた誇りを大切にした対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、利用者本位の生活ペースに合わせ、ゆとりを持った支援を行っている		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じて、食事の下ごしらえ、盛付け、後片づけなどを一緒に行っている。また、職員も利用者と同じものを会話をしながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に6～7回行っている。拒否がある場合は無理強いせず、利用者に合わせた対応をしている。入浴時間もゆとりを持ちゆとり楽しむことのできる支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食事の準備など、役割を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望に沿って散歩やドライブなど体調にあわせた行程で、積極的に外出する支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず見守りまた、一緒に行動するなど利用者の安全に心がけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	マニュアルを作成し、消防署、近隣の施設の協力を得て訓練をしている。また、夜間の訓練も実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックも記録されており、法人内の栄養士による指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安らぎ、一日を居心地よく過ごせる広々とした空間になっている。照明、採光もやわらかく、畳の上でも過ごせるなどゆったりとくつろげるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	中には日ごろ使い慣れた家具類などが置かれた個性のある部屋もあるが、全体には少ない。	○	家族に呼びかけ、利用者がなじみの家具などに囲まれ、くつろいで過ごせる雰囲気作りを今後もお願いしたい。

※  は、重点項目。